

# 福祉×学生×お笑いによる ソーシャルプロダクツ啓発ツール作成



#福祉

## 目的

お笑いの力を借りて、学生と障がい者が力を合わせて、ソーシャルプロダクツ啓発ツール(動画啓発資料)を作成することで、参加者間の相互理解と創造性を育む



## 活動の概要

- **主な連携先**  
吉本興業株式会社 フランポネ(マヌー島岡氏、シラ氏) / 藤田ゆみ氏  
社会福祉法人若草会 / 就労継続支援B型事業所(OLIVIA+, Chouchou, 道の空) / 株式会社チクマほか
- **活動地域**  
大阪府
- **活動期間**  
2022年6月～2023年3月
- **活動資金**  
地域連携活動に対する補助事業

## 連携にいたる経緯

学生が、福祉事業所や企業と協働してソーシャルプロダクツ(魔女プロダクトの各種商品)を創造した。それらの効果的なPRツールを作成するプロジェクトであるが、お笑いの力を借りながら福祉と学生が交流し、多様性理解や創造力を育むことも企図された。



## 活動内容

吉本興業株式会社に所属するフランポネ(マヌー島岡氏、シラ氏)、藤田ゆみ氏は、漫才でSDGsの啓発を図っている。5月～6月に彼らと一緒に企画を練り、6月24日の半日以上をかけて、福祉×学生×お笑い×地域企業による「魔女プロジェクトの漫才CMづくり」を行った。

3時限目にごちゃまぜのチームを作り即興漫才の作り方を学び、4時限目にチームごとに漫才CMの台本づくり、5時限目にネタ練習とCM動画撮影を行った。

当日、お笑いの力による各種効果について、アンケート調査も実施して、参加者の高い満足度と想像力・創造力の向上をはじめとするプラスの効果が測定された。

7月にCM動画が完成して、百貨店やイベント販売で活用した。その成果の一部については、そばくり博覧会という全国規模の合同ゼミナールで発表され、研究論文の形にもまとめられた。

## 活動の成果

- お笑いの力を用いて、福祉事業所の方々と学生が深く交流して多様性理解が促進された
- 効果的なソーシャルプロダクツ啓発ツールを作成・活用することができた
- 学生たちの想像力・創造力が高まった

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- 学生を中心に、多様性理解を育む様々な協働プロジェクトの展開
- お笑いの力を借りて、学生の想像力や創造力を高める継続的なプロジェクトの展開

商学部 教授 横山 恵子 Yokoyama Keiko



調査現場において、既存の枠を打破して新価値創造に果敢に取り組む人々と触れあう中、アントレプレナーシップという生き方に魅せられるようになり、「ソーシャル・アントレプレナーシップと協働」を研究・教育活動の中核に置く。一般社団法人そばくりラボ代表理事。

